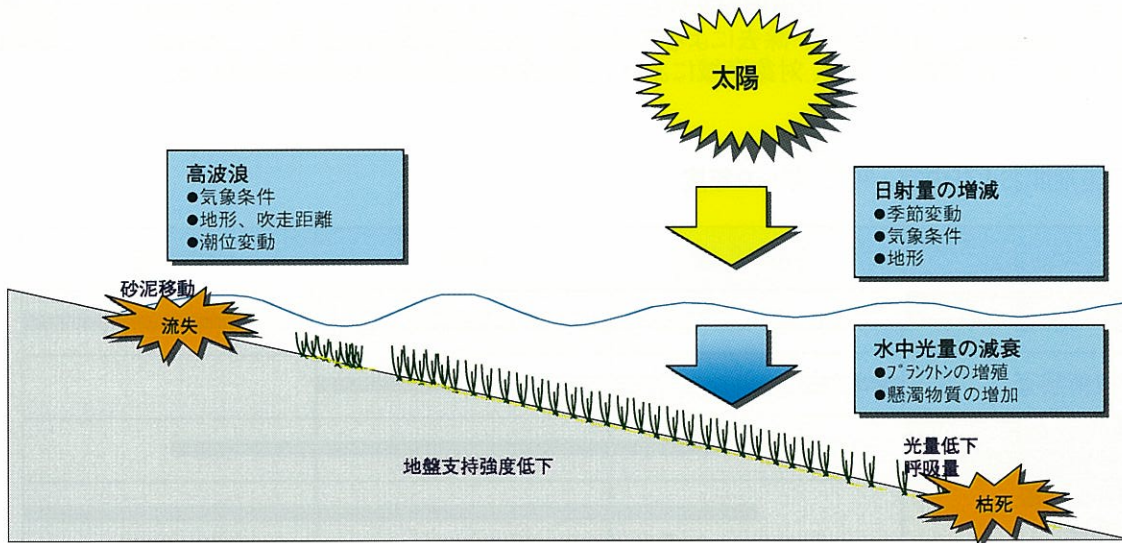


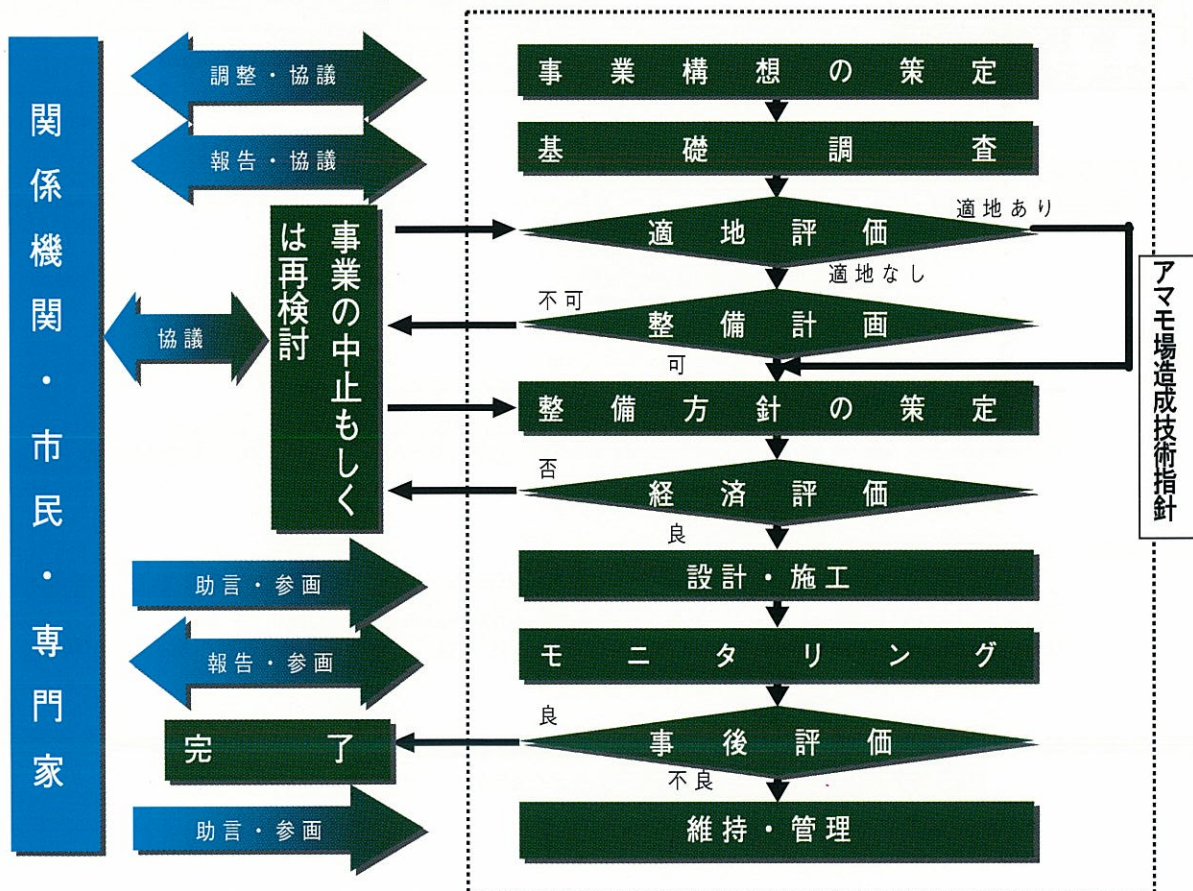
アマモ場の造成

研究会 海洋環境保全

種 目 浅海域緑化技術の開発



アマモの流出及び枯死のイメージ



アマモ場造成フロー

事業概要

●事業の背景および目的

今後のアマモ場造成事業がより確実に、かつ効率的に推進されるために、個々の候補地ごとの制限要因を特定するための調査解析手法や適地評価基準等を示した指針が求められていた。

このため、平成9年度から13年度までの5ヶ年間で、岡山県の日生町をフィールドにしてアマモ場の制限要因の解明とその解消または緩和する技術などについて調査・研究を実施した。さらに、今後のアマモ場再生への道標となるよう事業としての経済性評価の検討なども併せて実施し、アマモ場造成技術指針としてとりまとめた。

●事業実施期間および内容 平成9年度～13年度

事業内容/年度	平成9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
既存資料調査					
沿岸域都道府県へのアンケート調査					
和歌山県下における海藻の生育状況と環境造成試験・モニタリング調査					
生育制限要因としての光環境調査・試験					
岡山県下におけるアマモの生育状況と環境大規模造成実証試験・モニタリング調査					
生育制限要因としての水理環境調査・試験					
広域アマモ場造成試験・モニタリング調査					
水理環境改善対策試験					
生育制限要因としての底質環境調査・試験					
モデル海域(広島市アマモ移植業務地)調査					
造成試験区モニタリング調査					
底質環境改善対策試験					
生育制限要因としての複合要因調査・試験					
造成事業の経済性評価					
造成技術指針・普及啓発ビデオの作成					

●主な成果

- 全国のアマモ場の現状について整理
- アマモ場造成事例の成功と失敗の要因について整理
- アマモ場造成技術指針の作成
 - アマモ場の位置付け
 - 調査・解析手法
 - 適地評価
 - 適地でないと判断する基準
 - 事業後のモニタリング調査
 - 維持・管理

●研究成果の応用範囲

かつてはアマモ場が形成されていたものの何らかの環境変化の影響を受けてアマモ場が消失した場所において、消失の原因となった環境要因を解消もしくは緩和させることによってアマモ場を「再生」させる

●種目参加会員

(株)東京久栄※、芙蓉海洋開発(株)、東和科学(株)、三洋テクノマリン(株)、日本植生(株)、広和(株)、

(株)中山製鋼所 ※幹事会社

●協力機関 岡山県・水産課、水産試験場、栽培漁業センター